

## 研究主題

# 計画的な聴く機会の実践と若手の成長 ～「若手教員養成講座」のもたらしたもの～

大阪市内立上町中学校

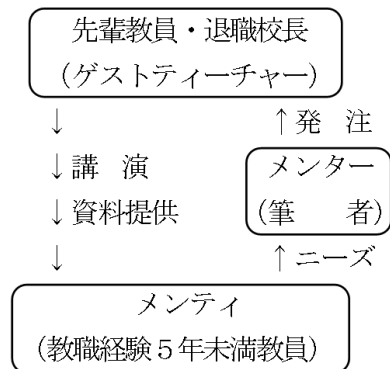
## 1. 取組内容

年間を通して、先輩教員が計画的に講座を実施。メンターがメンティより要望を聴き取り、先輩教員に話してほしい内容を伝えた。実施方法は日程調整など昨年度から改善を重ねた。

週に1回の頻度で依頼を受けた先輩教員は、それぞれの持ち味を活かした講話を実施し、講演・質疑応答などを積み重ねた。担任からは学級通信や、事務室からは学校のお金の流れなどの資料提供を受け、専門的、かつ実践的な研修を実施してきた。

メインに2回退職校長をお招きし、生徒指導を法的側面や、実務レベルで講演をいただいた。資料集にもあるように、濃い講座が実施でき、若手の「無意識」が次々と言語化されていった。計20回を越える講座をほぼ計画どおり実施できた。

### (組織図)



## 2. メンターの感想

- ・ 先輩の先生方のお話のすべてが実践に基づくものであり、メンティも興味深く聴講できた。
- ・ 回を増すごとに講座がメンティの楽しみになり、普段の仕事でなかなか聴けないお話に触れることができた。
- ・ メンティ同士の結びつきも強くなり、情報交換や相互参観など、人間関係が密になっていった。
- ・ メンター自身もメンティに声がかげやすくなり、非常に有益であった。

## 3. メンティの感想

- ・ 教師としての基礎や在り方を学んだ。
- ・ 違う学校の様子が想像でき、刺激になった。
- ・ もっと質問したかった。
- ・ 先輩に相談できるような「ネットワーク」ができた。
- ・ 昨年の積み重ねがあったので、臨機応変に活動できた。
- ・ 佐藤精治先生（退職校長）のお話を近くでお聴きし、理想と現実を知った。

## 4. 成果と課題

担任をもつメンティもいたため、いくら時間を確保してもすべてをカバーすることはできなかった。しかし、参加者からは毎回「知らなかった」などと感想を得た。また、先輩たちの真摯に向き合ってこられた実体験の講話は、目から鱗の発見が多かったように思う。

課題としては教科に特化した取り組みが出来ていないので、参観のみにとどまらない研究協議などがあっても良いと感じた。（メンティの研究授業は一人一回実施）また、若手教員がどうしてもインプットばかりにとどまったので、自ら発信する機会を作っても良い。

今後は講座をより充実させ、授業以外にも多くの学ぶ機会があると発信していきたい。